



本人の声
佐藤 勝代さん

その人らしさは変わらない
「私ね、忘れっぽいんだけど、聞くとみんなが教えてくれるの。」「いつも助けてもらえて、本当にありがたい。若い時から周りへの感謝の気持ちを大切にしていた勝代さん。勝代さんの口からは、今でも変わらず感謝の言葉が溢れます。
この日のいきいきサロンでは、花笠音頭をみんなで踊りました。人を楽しませることが大好きな勝代さん。自分の故郷の踊りを披露して、周りの参加者を自然と笑顔にしています。」



家族の声
村上 眞理子さん

今度は母が認知症に
「今までたくさんの人に支えられてきたから、今度は誰かの役に立ちたい。」
そう言いつて取材を快く受け入れてくれた村上眞理子さん（71歳）。これまで、認知症の父と姑、病気の夫を介護してきました。姑と父、夫を看取り、現在は認知症を患った母の佐藤勝代さん（94歳）を自宅で介護しています。
「3年前くらいだったかな。父の介護と一緒にしてきたけど、段々と父のことに関心が無くなって、上手く介護ができなくなっ

温かく見守ってくれた—— 地域の皆さんに感謝

きました。おかしいと思って病院に行くけど認知症と診断されました」と、眞理子さんが当時のことを話してくれました。几帳面の人一倍しっかりしていた勝代さんが認知症と診断されたことがとてもショックだったそうです。

誰かの役に立ちたい

勝代さんは徐々に記憶力が低下していききました。デイサービスの時間を教えても少しするとまた同じ質問を繰り返すようになり、最近眞理子さんの姿が見えないと不安で、眞理子さんについて歩くだど分かっていてもついいきつく怒ってしまうことがあります。それでも、笑顔を見せる勝代さんを見ると、眞理子さんは後悔に苛まれるといいます。

料理が大好きだった勝代さん。今は、味付けや料理の手順が分からなくなり1人ではできなくなりました。



▲いきいきサロンでは地域の方と一緒に楽しい時間を過ごします

病気ではなくその人を見る

「認知症」と聞くと、どう接したらいいかわからないという「戸惑い」を感じる人も多いかもしれませんが。まずは、その「人」を見るのが大切です。その人には認知症と診断される前に、何十年と積み重ねた人生があります。できなくなっていくことがあっても、その人であることに変わりはありません。「できる、できない」という物差しだけで見るのではなく、1人の「人」として寄り添うことで、認知症の方が勝代さんのように、心穏やかに過ごしていくことにつながるのではないのでしょうか。

「家族の役に立ちたい、何かやらなくてはと思うのでしよう。昔のように台所に立ったり、庭の草むしりを始めるんです」と日々の生活について話します。眞理子さんはそんな勝代さんを止めようとはせず、隣に立って手順を1つ1つ伝えます。

1人の人間として「誰かの役に立ちたい」という気持ちは、認知症の方も私たちと同じです。その思いを受け止め、役割があること、ここにもいいんだと思えることは、不安の中に生きる認知症の方にとつて、安心感へとつながっていきます。

抱え込まず誰かに相談を

「決して1人で抱え込んでほめ。自分が壊れてしまう。しんどい時はみんなで介護をすることが大事」と力強く話す眞理子さんは、家族や地域、ケアマネジャー、介護事業所に支えられてきました。特に近所の人には、勝代さん

の認知症をためらわずに伝えていきます。「地域のみなさんには認知症を打ち明け、いつも見守ってもらっています。町を歩けば声を掛けてもらい、いきいきサロンでも変わらず接してもらっています。母が母らしく過ごせることに、感謝があります」と微笑みながら話す眞理子さん。

地域の中で認知症とともに生きる勝代さんと眞理子さん。地域の理解と温かいつながりの大切さを教えてもらいました。



▲お二人のツーショット、インタビュー中も笑顔の絶えない和やかな雰囲気がありました



担当ケアマネジャーの声
公立藤田総合病院
在宅ケアセンター所長・看護師
松浦 弓子さん

地域全体で支えあう—— みんなで見守ることが大切

お互いを尊重する

眞理子さんとは、お姑さんの介護のときから11年間ケアマネジャーとして関わってきました。

認知症を患う前の勝代さんは、旦那さんが物事の理解が難しくなっても必ず旦那さんを立て、家長としての尊厳を守れるように関わっていました。眞理子さんが勝代さんを介護するようになってからも、同じように眞理子さんが勝代さんを尊重しながら介護しています。

誰かが困っていれば、いつでも助けるようなお二人だったので、今度は「お互いさま」という気持ちで、地域全体で支え合っているように感じています。

また、認知症の方を介護する上でお互いに「顔を知っていること」「隠さない」ことがとても大切だと思います。本人や家族のことが分かるからこそ声が掛けやすいし、みんなで見守ることができそうです。そんな地域であれば、認知症があってもなくても共に暮らしていける国見町になっていくはずですよ。